



CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ・・・・・・・・・・ 1
- ◆教育学部長あいさつ・・・・・・・・・・ 2
- ◆学部からのお知らせ・・・・・・・・・・ 3
- ◆学生の年間スケジュール紹介・・ 4
- ◆卒業生の声・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ◆後援会活動の概要・・・・・・・・・・10
- ◆後援会役員名簿・・・・・・・・・・・・11
- ◆学生支援事業のお知らせ・・・・・・12



明日のために、今

後援会会長 園山 薫

新入生並びに保護者の皆様には、御入学を心からお祝い申し上げます。あわせて、保護者の方には、島根大学教育学部後援会の会員となられましたことを歓迎申し上げます。また会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年度、会長を務めさせていただくことになりました園山と申します。皆様のお力をお借りして責務を果たして参りたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

本後援会は、「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学中の教育に関し、学部と協力すること」を目的に、昭和27年に学生を支える仕組みとして活動が始まり、今日まで、学部関係者をはじめ各方面の諸先輩方のご尽力により、学生の皆さんが充実した大学生活を送ることが出来るよう取り組んできました。昨今は、新型コロナウイルス感染症によって様々な影響が及ぶ中、感染症防止設備の充実やオンライン授業に対応するPC配置など、学生の皆さんが少しでも良い環境で勉学に励めることを願い支援を続けております。

さて、令和5年に島根大学は、旧島根医科大学との統合20周年を迎え、次代に向けて新たな挑戦を続けていくところです。本学部は、山陰で唯一の教員養成に特化した学部として優れたスキルを持った教

員を輩出しつつ、その活動実績は全国的にも高い評価を得ています。しかし、教育現場においては、少子化による学校の統廃合や教員不足、教員の労働環境の改善など、喫緊の問題が山積しています。いずれも簡単に解決できるものではないでしょうが、本後援会として良い方向に進むことを期待しながら、将来教師となるために頑張っている学生の皆さんをサポートして参ります。

未だコロナ禍は収まらず、国際紛争も起こる中、先行き不安な日々が続きますが、このような時こそ教育の大切さが改めて認識されます。教育には明日を変える力があると思います。問題も苦悩も多い今こそ、教育や社会の課題に対応できる教師力を持った「人」が求められています。本学部のカリキュラムでは、まさに未来をつくるクリエイターとしての教員を育成するための様々な取り組みが行われています。そうしたなかで、本学部の特色の一つである「1000 時間体験学修」をはじめ、課外活動や就職活動などへの支援をおこない、学生の皆さんが実り豊かな大学生活を送り、それぞれの夢が実現できるよう応援する本後援会の役割は大きいと言えます。

今後とも皆様のご理解を賜り、ますます後援会活動ができますよう、ご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



教職の魅力を実感できる 学部教育を目指して

教育学部長 河添 達也

令和4年度入学生の保護者の皆様方、ご入学おめでとうございます。教育課題が山積する中、わが国の学校教育の未来を担う第一歩として島根大学教育学部を惹起され、ご入学いただいたことを心からうれしく思います。また、教育学部後援会の皆様方におかれましては、平素から本学部の教育・研究活動、ならびに就職支援活動等に多大なるご理解とご協力を賜り、あつくお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、依然収束への見通しが立たない日々が続いていますが、それでも社会活動は徐々に日常を取り戻しつつあります。島根大学でも、参加者限定ながら、3年ぶりに対面による入学式を挙げる事ができました。直後の学部オリエンテーションは2班に分けて対面で行いましたが、新入生計140名の輝く瞳を前にして、私たち教員もあらためて身が引き締まる思いでした。

さて、今年度からすべての校種で、新たな学習指導要領が完全実施となります。そこでは、学校での学びを人生や社会に生かす力や人間性の涵養が謳われています。また、子どもたちに主体的で探究的な学びを促し、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成を目指しています。そのために、教師が身につけるべき資質や能力はもとより、教育方法のあり方そのものにも大きな転換が求められています。

島根大学教育学部では、このような教育課題の変化を見据え、先行的に様々な教育制度や体制の整備をおこなってきました。たとえば、子どもの学びを俯瞰的に捉えることのできる小・中（高）免許併有型の主副専攻制や、すでに固有名詞化している1000時間体験学修、地域社会との連携を担う社会教育士養成特別プログラムの開設などです。また、学生の学びを可視化し定期的な個別指導を行うWeb学修ポートフォリオ・システムや、学校教育実習を組織的にサポートする教育実習部の設置、ICTハンド

ブックの作成なども特筆できます。これらを通して、本学部の目指す教師像は主に次の3つに集約できます。

- ・学び続ける教師
- ・教育実践を省察する教師
- ・社会における未来を創造する教師

加えて今年度からは、教職の魅力化を「みずからの問題」として追求する臨床的な学びの場を創出していきたいと考えています。昨今、教員採用試験の受験倍率が顕著に減少し、各校における教員の未配置が大きな社会問題となっています。それは、教育そのものへの魅力が薄れたのではなく、学校の職場環境改善への遅れが主因ではないかと思われます。では、どうすれば「教育」に情熱を抱く学生がモチベーションを維持し、「教職」志向を継続・向上させることができるのか。その解を求めて、学生自らが実地に学び、教職の魅力化について議論を交わし、より良い改善に向けた提案を行う機会を創出したいと思うのです。

ここ数年コロナ禍にあって、学生の主体的な探究活動は大きな制限を受けてきましたが、今年度はほぼすべての授業が対面となり、授業外の構内立ち入り制限も緩和されました。少しずつ、学生の主体的・探究的な学修活動を促す環境が整いつつあります。また昨年度、附属学校敷地内に敷設した「教育学部附属山陰教員研修センター」では、コロナ禍によって培われたオンライン・システムのノウハウを活用し、遠隔地の現職教員との対話はもとより、山陰両県の現職教員研修に学部生・院生も参画する協働的学修の試行も始まっています。

このような令和の日本型教育を担う教師の育成に向け、今後も教育学部の全教職員が一丸となって、学生教育に従事していく所存です。後援会の皆様方には、本学部における教育活動の趣旨をご理解いただき、ますますのご支援・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

教育学部・教職大学院 一貫プログラムが始まりました

令和4年度には、同制度を利用して、教職大学院に3名が進学しました。

令和3年度から、教育学部・教職大学院一貫プログラムが始まりました。このプログラムは、学部卒業後に引き続き教職大学院への進学を希望する学生に対して、4年生のときから教職大学院の授業や各種行事に参加することができるなど、通常教職大学院に入学後2年間で学ぶ内容を3年間でじっくり学べるプログラムです。

■プログラムの内容

学部4年次に、以下の活動等を行うことができます。

- 1) 教職大学院で開講される共通科目の履修(4科目まで)ができます。(修得した単位は8単位まで教職大学院の修了に必要な単位として認定されます。)
- 2) 教職大学院の専任教員とともに、教職大学院で実施する地域教育課題研究に向けたゼミ活動を行います。
- 3) 教職大学院で行われる各種行事への参加(院生の研究成果発表会等に参加します。)
- 4) 教職大学院専任教員による教員採用試験対策の活動へ参加することができます。
- 5) 教職大学院専任教員からの卒業研究に関する指導を受けることができます。

■申請要件

3年次前期までに次の基準に達していることが必要です。

- ①教育学部の卒業要件単位のうち、96単位以上を習得していること。
- ②教育体験活動のうち、「学校教育実践研究Ⅱ」、「学校教育実習Ⅲ」、「学校教育実習Ⅳ」、「学校教育実習Ⅴ」の単位を修得見込みであること又は履修資格を有していること。
- ③GPAが3.0以上であること。

■申請・選考等(前年の12月頃に募集要項が発表されます。)

- (1) 申請受付期間：2月後半頃に申請
- (2) 申請方法：申請書、志望理由書、成績証明書を学生センター教育学部担当に提出
- (3) 選考方法：3月初め頃に志望理由書、成績証明書の書類審査及び面接を実施
- (4) 発表日：3月後半

よくある質問Q&A

Q 教職大学院の入試を改めて受ける必要がありますか？

A 学部の卒業や教職大学院への入学は従来通りです。したがって、教職大学院の入試も受験していただきます。ただし、一貫プログラム履修生用の入試を行います。

Q 教職大学院で就学中に教員採用試験に合格した場合、採用はどうなりますか？

A 入学前や1年生のときに合格した場合、鳥根県や鳥取県等では大学院修了まで合格を維持したまま、採用を待ってもらえる制度があります。

Q 教職大学院への進学時、入学料はかかりますか？

A 通常通り入学料を納めていただきますが、入学料と同額程度の奨学金が支給される予定ですので、実質的に入学料はかかりません。

Q 指導教員は学部と教職大学院で変わりますか？

A 基本的に学部の指導教員も、そのまま指導教員のメンバーに加わるような体制ができるようにしていきます。

Q 途中でプログラムの履修をやめることはできますか？

A 一貫プログラムの中止願を提出することにより、本プログラムの履修を中止することができます。しかし、ぜひ教職大学院修了までの3年間の学びを達成して欲しいと願っていますので、よく検討して申請してください。

1年 学生の年間スケジュール紹介

入門期セミナー

《入門期セミナー》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間を共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。

1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。



教育学部で学ぶこと

1年前期に開講される、専門教育科目の基盤となる科目です。文献検索やレポート作成など、大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけるとともに、授業観察や授業協議など、教育学部生に必要な技術を身につけます。また現代的教育課題についての理解に基づいて、自らの進路に応じた履修モデルを構想します。

大学祭

松江キャンパスでは「凧風(しょうふう)祭」という名称で毎年10月に開催されています。



基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交流会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎入学式・オリエンテーション							◎大学祭				◎基礎体験交流会
◎入門期セミナー		◎地域理解セミナー					◎スタートアップセミナー				
	◎専攻決定ガイダンス			◎主専攻決定				◎介護等体験登録締切	◎介護等体験説明会		
	◎一般教養ちからだめし ★教職志向性調査										
		◎学校教育実習Ⅰ									
	◎学校教育実践研究Ⅰ										
◎基礎体験合同説明会											
◎基礎体験活動開始											
					◎在学生ガイダンス						
					◎副専攻仮決定 (年度末に決定)						◎副専攻決定

学校教育実習Ⅰ 教職志向・進路調査

附属幼稚園・附属義務教育学校で3日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。(前期・20時間)



基礎体験活動開始 (1000時間体験学修プログラム)

必修の100時間(基礎体験セミナー・介護等体験など)と選択の540時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加できます。



地域理解セミナー

これから本格的に基礎体験活動始める1年生対象の基礎体験セミナーです。地域における学校現場以外での教育活動について理解を深めたり、基礎体験活動におけるルールやマナーについて確認したりして、安心して活動に取り組むことができるためのセミナーです。

学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。大学4年間の学びにおける教育実習の位置づけを理解するとともに、「教わる側」から「教える側」への視点の転換を図ります。また、学校教育実習の期間中には、自ら作成した授業(保育)記録に基づいて建設的な授業協議を行うための基礎的な技能を身につけます。(前期・20時間)



スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組を振り返る基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



学校教育実習Ⅱ

附属学校園で行う教科指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時までに別途定められた履修資格を満たしている必要があります。(通年・20時間)

充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組の傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組です。2月末の「宿泊研修」には2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現任教員である先輩との交流会もあります。



◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎介護等体験事前指導					◎充実期セミナー			◎教員採用試験合格者 体験報告会			◎基礎体験交流会
★教職志向性調査					◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明 ★LP入力 ★教職志向性調査		◎LP返却 ★LPまとめ			◎教師力 パワーアップ セミナー	
					◎在学生ガイダンス		◎C系・G系				
	◎学校教育実習Ⅱ										◎LP提出締切
	◎介護等体験										

学修ポートフォリオ(LP)

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。「学修ポートフォリオ(LP)」は、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。これまでの「プロフィールシート」から新しく「学修ポートフォリオ」へとシステムを変更し、より入力しやすくなりました。「学修ポートフォリオ」の作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面でいきます。その目的は、教師に必要な能力の総体である「10の教師力」の修得状況を、複数の評価視点(自己評価、他者評価、客観的評価)からレーダーチャートや言語による可視化をすることにより、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。数値だけでなく、ポートフォリオを仲介とした指導教員と学生のコミュニケーションを大切にしています。

C系・G系

学校教育体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。C系は個人(子ども・保護者)に対する支援(Counseling)を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。G系は学級集団形成など集団における支援(Group approach)を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。(2年後期・3年前期 各20時間)



介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設(老人ホーム等)で、あわせて7日間の体験を行います。

〈内訳〉

●島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験(2日間)

(例)授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助の体験等

●島根県内の社会福祉施設(老人ホーム等)での体験(5日間)

(例)介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助の体験等

3年 学生の年間スケジュール紹介

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、学習者理解を基本とした教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるためのふりかえりを行います。(通年・40時間)

スクール・インターンシップ

3年生の後期は実習 Semester となり、この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意されたスクール・インターンシップを行います。公立小中学校を中心に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ(前期・40時間・1単位)

主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業観察を通して、授業を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います。

●学校教育実習Ⅳ(後期・120時間・4単位)

主専攻に対応し、授業実践に軸を置いた教育実習です。教科指導をはじめ、学習集団の形成や学級経営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。

●学校教育実習Ⅴ(後期・40時間・1単位)

副専攻の校種・教科に対応した観察実習主体の教育実習です。学齢期にある子どもの「成長」「発達」をより長いスパンから捉え、子ども理解を深めます。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実習	◎学校教育実践研究Ⅱ						◎スクール・インターンシップ						
		◎学校教育実習Ⅲ				◎学校教育実習Ⅳ				◎学校教育実習Ⅴ			
講義・その他	◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ★教職志向性調査					◎在学生ガイダンス			◎面接道場 ◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会 ★LP入力 ◎LP返却 ◎応用期セミナー ★LPまとめ ◎教員採用試験スタートガイダンス				◎教師力 パワーアップ セミナー
	◎C系・G系												

面接道場

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。スクール・インターンシップ及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。2月末の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



4年

学生の年間スケジュール紹介

学校教育実習Ⅵ 幼稚園実習

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。取得したい免許状に基づき、学校教育実習Ⅵ、幼稚園実習のいずれかを選択します。

学校教育実習Ⅵ（前期・40時間・1単位）[選択]
幼稚園実習（前期・80時間・2単位）[選択]

発展期セミナー

4年生対象の基礎体験セミナーです。4年間の大学生活で、自ら選択して取り組んできた基礎体験活動について振り返ります。基礎体験活動の成果や、自己の在り方への影響度などを協議することを通して、自分自身の学修の総括を行います。



学生就職・進路情報

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をブログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	◎題目提出締切り(指導教員に提出)						◎口頭試問 ◎卒業演奏試験(音) ◎卒業論文提出 ◎卒業作品提出					
教員採用試験	■願書提出 ◎教師力パワーアップセミナー ◎願書添削セミナー ◎マナーアップセミナー		■一次試験 ◎合格発表		■二次試験 ◎講師登録 ◎合格発表				■各教育委員会による合格者研修		■勤務校決定 ■講師採用の連絡	
その他	◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎進路希望調査		◎学校教育実習Ⅵ ◎幼稚園実習		◎発展期セミナー ◎在学生ガイダンス(就職・進路調査)		◎教育職員免許状申請手続 ◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会 ◎LP入力		◎教職実践演習		◎卒業式 [LP返却] ◎進路状況調査 ◎LPまとめ入力	
				◎大学院出願(Ⅰ期) ◎大学院入試(Ⅰ期)				◎1000時間体験学修時間認定締切り ◎大学院出願(Ⅱ期) ◎大学院入試(Ⅱ期)				
★教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。												

◎教員採用試験 先輩からのアドバイス◎

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果の範囲をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出、必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない、同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

未来教師塾

教員採用試験対策

<教師力パワーアップセミナー>

- ◎主に面接(集団・個人)、集団討論の練習をします。
- ◎教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をさせていただきます。ここでのアドバイスはとても重要です。

<就職支援室>

- ◎証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- ◎各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- ◎その他の就職相談

<その他>

- ◎願書添削セミナー、マナーアップセミナー等の開催



卒業生の声

卒業を前に大学生活、学習等で思い出に残ったことや、後輩への言葉などを寄せていただきました。

島根大学での生活

初等教育開発専攻 川口 花凜



島根県での4年間の大学生活を振り返ってみると、本当に多くの人と出会い、支えられてきたなと感じます。同じ目標を持ちいつも刺激を与えてくれた大学の仲間、1000時間体験学修で出会った方々、自分の夢を叶える手助けをしてくださる先生方、アルバイト先の仲間・上司、様々な方と過ごした時間は自分にとってかけがえのない時間です。

特に自分の出会いを広げる大きなきっかけとなったのは、島根大学の魅力の1つである、1000時間体験学修です。地域のコミュニティセンターで企画・運営を行ったり、不登校の子どもたちとキャンプをしたり、島根大学の魅力を島根県に発信したりと、様々な活動に参加しました。岡山県出身の私が、こんなにも地域の活動にのめりこむことができたのは、どんな自分でも受け入れてくださる地域の方々に出会えたからです。自分に期待してくださり、大学生を大人として頼ってくださったので大きな責任感を学ぶこともでき、自信につながりました。それに恩返ししたいと思い、子どもだけではなく、地域が盛り上がるような企画を全力で考えることができました。時には、活動中上手くいかず落ち込んだこともありましたが、子どもたちの笑顔を見てみると自然と元気が湧いてきて何度も助けられました。これらの経験は、島根大学だからこそできたことだと思っています。教師を目指す人だけでなく、立派な社会人になるために、とても大切な経験ができる機会、成長できる環境が整っています。

私は春から岡山県で、小学校の教員として働きます。不安な気持ちもありますが、たくさんの方々の支えがあって夢を叶えることができたということをお忘れず、4月から頑張っていきます。島根大学で得た人とのつながりを武器に、地域を盛り上げていけるような人間を目指していきます。

自分自身で掴む学び

初等教育開発専攻 高橋 郁也



島根大学の4年間を通して私が1番頑張ったことは「1000時間体験学修」です。大学に入学した直後は、バイトや部活、新しくできた友達と遊ぶことなど充実した大学生活を夢見ていました。そのため1000時間体験学修に対して、「めんどくさいな」「早く時間をためて楽をしよう」と思っていました。そんな1000時間体験学修ですが、いざ活動が始まってみると無邪気に楽しむ姿や悩みながらも班のメンバーをまとめる姿など自分が想像もしていなかった子どもたちの姿に大きく心を動かされました。そこで思い切って、当時所属していた部活動を辞めて1000時間体験学修に力を入れることに決めました。今、思い返すと当時の決断は正解だったと思います。

新入生の皆さんに伝えたいことは、4年間の大学生活で何か一つでも自分が本気で頑張ったと思える出来事を経験してほしいということです。それは、部活やサークル、バイト、授業など何でも良いです。私にとってはそれが1000時間体験学修でした。本気で何かに取り組むことでしか得ることができない学びがあります。私は、1000時間体験学修を通してたくさん子どもたちと関わり、肯定的な言葉かけや頑張りを褒めることが子どものよさや可能性を引き出すことにつながるのだと学びました。言葉だけ聞くと当たり前のように感じるかもしれませんが、悩み、考え、本気で取り組んだからこそ得ることのできた学びでした。このような学びは、今後の自分にとって大きな糧となると思います。

来年度は、島根県で小学校の教員として働きます。生まれ育ったこの島根の地で子どもたち一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばしていけるような教員になりたいです。そして、これからも学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。

夢に向かって

言語教育専攻 国語教育コース 長廻 美紅



卒業するにあたり大学4年間を振り返ってみると、この島根大学教育学部は、私にとって夢を叶えるための最高の環境であったと強く感じています。

島根大学教育学部最大の魅力は、1年生の時から教育実習があるということだと私は思っています。教育実習といっても、いきなり授業をするわけではありません。1年生では授業観察を行い、子どもたちの様子や先生の授業の仕方から教師という仕事について学んでいきます。これまで授業を受ける側だった私が、初めて授業をする側の視点に立つことができたのがこの1年生での教育実習でした。そこから大学の講義や1000時間体験学修で教科についての知識や子どもとのかかわり方を学び、教員としての資質や能力を身につけていきます。

また、自分の志望する校種だけでなく、複数の免許を取得できることも魅力の一つだと思います。小、中、高全ての免許を取得できるよう、4年間勉強に励みました。それに伴い授業数が増えたり、忙しくなったりすることはありませんでしたが、自分の進路選択の幅を広げることができました。結果として4月からは島根県の中学校で働くことになりましたが、初等系の授業や高校で扱うような教科の専門知識を意識しながら、目の前の中学生に全力で向き合っていきたいと考えています。

教育学部で学んだ4年間は、私にとってとても有意義な毎日でした。辛い時もありましたが、同じ言語教育専攻の友人はもちろん、他専攻の友人とも励まし合いながら夢に向かって取り組むことができました。この教育学部で学んだことを胸に、4月から教育現場で学び続けることのできる先生になりたいです。

教師として、人として

共生社会教育専攻 高濱 広海



これからの4年間は自分自身を磨くための期間にしてください。私は中学生のころから教師に憧れ、島根大学教育学部に進学しました。入学したころはとても不安で、憧れていた教師になれるか自信がありませんでした。しかし、4年間を通して多くの人と出会い、様々な活動を通して自信が出てきました。特に、1000時間体験活動では実際に子どもと関わり、仲間と一緒に子どものためになる活動を考えることはとても難しく、やりがいのあるものでした。ここでは教師としての能力を磨くだけでなく、自分には何が得意で何が苦手であるのか明確になり、自分を高めることが出来ました。教師は人を育てる仕事であると思っています。そのため教師としての力を伸ばすだけでなく、育てる側として、また人としての魅力を高めることも重要です。その人間性を磨くことは教師としての力にも繋がっていきます。これは大学の講義や活動だけで磨かれるものではなく、アルバイトなどの私生活の中でも多くの経験をできると思います。私も大学に入り、これまで経験したことのないことから多くの学びがあり、自分自身の魅力を見つけることが出来ました。私もそうだったように、新入生にとって大学はどういうものかわからない未知なものだと思います。しかし、未知であるからこそ今まで経験したことのないことや知らなかった自分に出会えます。だからこそ自分自身を磨き、成長する期間にしてほしいと思います。

私は春から鳥取県の中学校で社会の教員として教壇に立ちます。知らないことが多くあり悩むことや失敗することもあると思いますが、その一つ一つが自分を成長させてくれるものだと信じて、これからも自分を磨き続けていきたいと思っています。

後援会活動の概要

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナーなど学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）
- ③学生の学会発表等の交通費補助
- ④貸出用ノートパソコン等の整備



基礎体験活動
(1000時間体験学修)

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、実習受入校の実習経費への助成(学生が実習で使用する文房具や教材等への助成)



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成
- ②就職支援室の書籍整備等への助成
- ③企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成
- ④4年生の就職活動の交通費補助
- ⑤教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

- ①テキサス大学、ミンガン大学、ヴァージニア・コモンウェルス大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

- ①構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）
- ②コロナウイルス感染対策に係る経費への助成



正面入口前広場の花や観葉樹



各所に配置された消毒液

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成

令和4年度

教育学部後援会役員名簿

地区	氏名	在学年	氏名	役職
出雲市	園山 薫	4年	園山 実沙季	会長
出雲市	長崎 康弘	4年	長崎 耕作	副会長
松江市	門脇 晃一	4年	門脇 陸	幹事
出雲市	黒目 久美子	4年	黒目 尚志	幹事
松江市	有富 務	3年	有富 和生	監事
西伯郡	内田 浩文	3年	内田 有香	副会長
雲南市	岡田 亜輝	3年	岡田 郁実	幹事
出雲市	勝田 香里	3年	高木 拓哉	幹事
出雲市	岩崎 ひとみ	2年	岩崎 萌香	会計幹事
出雲市	内藤 正和	2年	内藤 綾香	監事
安来市	青木 朱美	2年	青木 水輝	幹事
松江市	柳浦 礼子	2年	柳浦 駿太郎	幹事
松江市	伊豫 宣行	1年	伊豫 瑛宣	幹事
松江市	三井 卓也	1年	三井 日咲子	幹事
米子市	山下 英	1年	山下 拓海	幹事
出雲市	山本 薫	1年	山本 俊介	幹事

(順不同、敬称略)

学生支援事業のお知らせ

教育学部後援会

2022年度の後援会学生支援事業として、下記のとおり実施します。
会員学生（保護者が後援会会員である学生）への補助となりますが、会員学生の方は遠慮なく申請してください。また、未入会の場合は、期限なく受け付けていますので、ぜひご入会ください。

全学年・院生対象

◆介護等体験、1000時間体験（基礎体験活動等）、実習semesterでの学校体験活動、実習等に伴う交通費を補助します。

【5,000円まで（年間）】（松江市内でも補助）

3・4年生、院生対象

◆教員採用試験模擬試験の受験料を補助します。

【5,000円まで】（生協等で実施している模擬試験を対象）

◆就職活動（教員等採用試験の受験を含む）の交通費を補助します。

【10,000円まで】

全学年・院生対象

◆学会発表等の交通費を補助します。

【10,000円まで】

○問合せ・申請先：松江地区学部等事務部総務課（教育学部後援会担当）
（法文学部棟1階 112室）

T E L : 0852-32-6253

E-mail : edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp

○発行 島根大学教育学部後援会
E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <https://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>

○発行日 令和4年8月1日

○発行所 島根大学教育学部後援会事務局

○所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6253)
FAX (0852-32-6125)

○印刷 明和印刷有限会社